

ア 施策の前提

「平和」「共生」を施策の前提に位置付け、この施策をすべての施策に通ずる考え方として、各施策を展開します。

0-1 平和



◎ 目標とするまちの姿

「平和都市宣言」及び「鎌倉市民憲章」の精神が市民間で共有され、市民一人ひとりが平和の大切さの認識をさらに深め、誰もが平和な環境で暮らすことができる世界（社会）の構築に向け、行動し続けているまち

◆ 現状

鎌倉市は、昭和 33 年（1958 年）8 月に「平和都市宣言」を行い、昭和 48 年（1973 年）11 月に「鎌倉市民憲章」を制定しており、本市の事業のすべては、この「平和都市宣言」と「鎌倉市民憲章」の精神に基づいています。

鎌倉市に限ったことではありませんが、戦争経験世代が少なくなる中で、平和に対する意識に変化が生じています。

また、世界的に「平和」という言葉が示す意味自体が、戦争や争いと対になる狭い概念から、日常を平穏に過ごすといった広い概念に変わってきています。

◇ 課題

平和に関する講演会やコンサート等のイベントを毎年実施していますが、市民意識調査において、「平和都市宣言」と「鎌倉市民憲章」の認知度が回答数の半数を下回る等、平和意識醸成の取組が効果的に行えていないと推察される状況にあります。

幅広い世代の市民に、平和の大切さを継続して伝えていくとともに、時代によって変化する平和の概念について、常に市民に伝えていく必要があります。

○ 主な取組

① 平和意識を啓発します

多様な世代の平和に対する意識を醸成するため、市の平和について考える礎であり、市の施策の根幹となっている「平和都市宣言」及び「鎌倉市民憲章」について、幅広い市民等に理解を深めてもらえるよう、身近な場で効果的に平和について考える啓発機会を提供します。

→ 成果指標

指標名	直近実績値	目標値又は目指す方向
鎌倉市は「市民一人ひとりが平和の大切さを理解し、平和な世界の実現に向けて行動しているまち」だと思う市民の割合	33.0% (2025 年度)	↗

0-2 共生



◎ 目標とするまちの姿

市、市民及び事業者が、それぞれの責務又は役割を果たし、相互に協力することで、市民がその個性や多様性を尊重され、自分らしくいることができ、また、お互いを支えあい、助けあうことで、安心して生活でき、社会の一員として、自らが望む形であらゆる分野における活動に参画する機会が確保されているまち

◆ 現状

男女平等の必要性は、広く社会に受け入れられつつあり、男性の育児休暇取得率の向上等、個々のライフスタイルにも変化を生じさせています。

外国人労働者が増え、また、日本のインバウンド需要も高まっていることで、多くの外国籍の方が市内に生活・滞在していることが日常的となっています。

LGBTQ⁶といった性的マイノリティの方に対する理解が進んでおり、パートナーシップ制度の導入等、社会構造も少しずつではありますが対応しはじめています。

多様な情報がやり取りされる社会が進行し、個々の違いを知ることができる機会が増えたことで、これまで以上に一人ひとりの人権や個性が重要視されています。

多様化を続ける住民等の個性を、社会や地域が受け入れる姿勢や意識は、柔軟化しています。

◇ 課題

社会や地域が、多様性を重要視する必要性を理解しはじめているとはいえ、社会構造や制度が十分に変化に追いついていないと言いき難い状況です。

これまでの価値観やそれに根差した地域のルールが、個人の価値観と衝突し、自分らしい生活や地域との交流の妨げとなり、生活に不具合や閉塞感を生じさせている場合もあります。

多様化した個性が、生活に複雑に絡みあいはじめており、これまでの経験や既存の手法・考え方だけに頼っての課題の解決は困難となっています。

⁶ 性的マイノリティの人を表す、Lesbian(レズビアン、女性同性愛者)、Gay(ゲイ、男性同性愛者)、Bisexual(バイセクシュアル、両性愛者)、Transgender(トランスジェンダー、生まれたときの身体の性別と性自認が異なる人)、Questioning(クエスチョニング)、Queer(クエア・性的マイノリティの人を包括する言葉)等のそれぞれの英単語の頭文字を使った造語で、自認する性や恋愛対象のあり方が多数派と異なる人等。

○ 主な取組

① 誰もが自分らしく参画できる社会を構築します

社会のあらゆる分野の活動に、誰もが自分らしく参画できる社会の構築に向け、市民一人ひとりの人権が尊重され、お互いを認めあう意識や他者を思いやる意識がさらに醸成されるよう、啓発に取り組みます。

② 相互理解・交流・協力に向けた環境を整えます

性別、国籍、文化等が異なる人々が、ルールを守り、お互いを認めあい、積極的に交流し、柔軟に視点を変えながら協力しあうことで、自身を含めた身の回りの環境をより良くできる仕組みの構築や意識の啓発に取り組みます。

→ 成果指標

指標名	直近実績値	目標値又は目指す方向
鎌倉市は「多様性を尊重し、異なる背景を持つ人々が協力しあえる環境が整っているまち」と思う市民の割合	34.7% (2025 年度)	↗

